

平成 28 (2016) 年度横浜市国際交流ラウンジ協議会合同研修会  
**多様性を力にー「話し合い」のコツに気づくワークショップ**  
実施報告書

## 1 研修会（ワークショップ）の概要

テーマ：多様性を力にー「話し合い」のコツに気づくワークショップ

**趣 旨**：国際交流ラウンジでは、年齢、性別、国籍、文化や生活背景などが様々な人たちが集い、ともに事業を作っています。今回の合同研修会では、イベントの企画や情報共有のためのミーティングなど、日常的に行われている「話し合い」をとりあげます。楽しく構えずに意見を出し合うコツを学ぶことで、互いの多様性をもっと生かせるようになることを目指します。体験型、入門者向けの講座です。（開催通知より）

**日 時**：2017年3月24日（金）13:00-17:00（240分）

**場 所**：横浜国際協力センター6階共用会議室

**対 象**：国際交流ラウンジで、話し合いの進行を行う機会がよくある人

**参加者**：16人

**講 師**：東 宏乃さん

静岡県立大学「ふじのくに」みらい共育センター地域連携コーディネーター／  
共育ファシリテーター／（生涯学習開発財団認定）ワークショップデザイナー

**主 催**：横浜市国際交流ラウンジ協議会（事務局：公益財団法人横浜市国際交流協会）

- 内 容**：
- ・最も短い参加型学習法をやってみよう！
  - ・意見を整理したり、重みづけをする方法を試してみよう！
  - ・「対話」の場を作る基本を押さえよう！
  - ・「対話」の場づくりに、ちょっとだけチャレンジしてみよう！

**全体スケジュール**：

- 1 開会、自己紹介
- 2 今日のねらい（ゴール）と進行、ルールと役割
- 3 最も短い話し合いの手法「ブレイン・ストーミング」の体験
- 4 ミニ講義（解題）  
「話し合いの手法で、どのような技やふるまいがありましたか？」
- 5 ミニ実践：ブレイン・ストーミング
- 6 「場づくり」の「ふりかえり」と自分へのおみやげ
- 7 閉会

## 2 研修会（ワークショップ）の記録

### 2-1【起】場を作る・場になれる～自己紹介と今日のワークショップのねらい 35分

#### 2-1-1 開会・講師紹介

輪になった形でスタート。



輪になって

#### 2-1-2 参加者自己紹介

自己紹介シートに各自記入する時間を作ったうえで、シートを見せ合いながら、自己紹介を行いました。

- (1) まずは、隣の人と2人で。
- (2) 次に、近くのペア（なるべく初めての人）と4人で。



自己紹介シート



2人で

#### 2-1-3 今日のねらいやルールを確認

このワークショップのねらいなどを、参加者全員で確認しました。

##### 【ねらい（ゴール）】

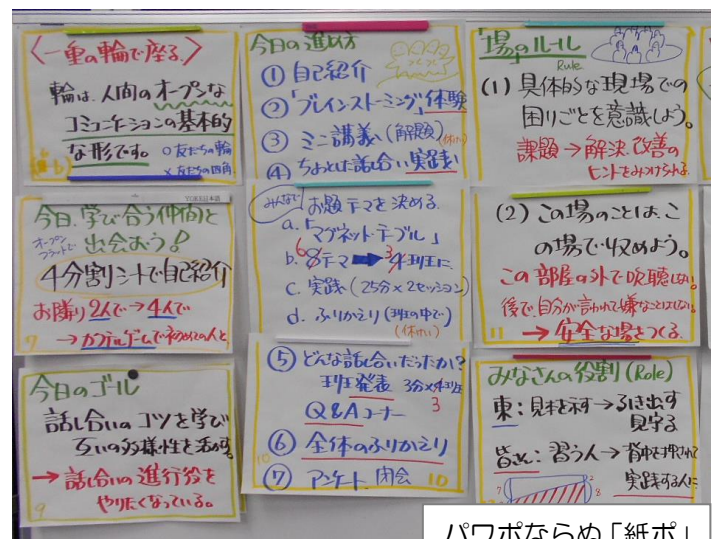
話し合いのコツを学び互いの多様性を活かす。  
⇒話し合いの進行役をやりたくなっている。

##### 【ルール】

- 1 具体的な現場での困りごとを意識しよう
- 2 この場のことはこの場で収めよう  
⇒安全な場をつくる

##### 【役割】

東さん：見本を示す→引き出す・見守る  
参加者：習う人→背中を押されて実践する人



パワポならぬ「紙ポ」

### 2-2-1「ブレイン・ストーミング」の準備 (40分)

話し合いの体験として、「ブレイン・ストーミング (=ブレ・スト)」を行いました。

(1) 「ブレ・ストとは？」を確認しました。

- ・最も短い参加型学習法、自由な話し合いの方法です。
- ・人が集中できる時間である、20分間が基本です。

#### ブレ・スト【4つの原則】

- (1) 自分の発言に責任を持たなくて良い。
- (2) 他人の意見を批判しない。
- (3) 質より量。自由奔放、どんどん出す。  
⇒出たアイデアは記録する。
- (4) 他人のアイデアへの便乗やマネも歓迎。

#### ブレ・スト【参加者の4つの役割】

- (1) 進行役：みんなが話せるように
- (2) 記録係：アイデアを書きとめよう
- (3) 発表係：他の班と共有しよう
- (4) 拍手・うなずき係：場づくり

(2) ブレ・ストで話す「お題 (テーマ)」を、参加者が考えます。

- ・自己紹介をした4人のグループで話し合い、お題案を1つ考えます。
- ・今回のお題は、『『地域や社会がこうなったら良いなあ』を入口に！』と講師から。

(3) お題の発表。次の3案が出されました。

案1 「〇〇〇人家族の近所の人からの苦情に、彼らはどう対応したらよいか。」

案2 「ベテランもフレッシュマンも自分の考えを出しやすい、話し合いの場の進め方」

案3 「多世代・多様なバックグラウンドの人たちで、新たな活動を始める時どう進めるといいか？」

(4) ここから案を1つに絞ります。

- ・「シール投票」によって、一番多くの票を得たお題を選ぶことにしました。
- ・一人3票のシールを持ち、話したいお題にシールを貼って「投票」します。
- ・投票結果は、案1⇒17票、案2⇒14票、案3⇒11票となりました。



シール投票

### 2-2-2「ブレイン・ストーミング」の実践 (20分)

模造紙に記録しながら、話し合いを進めました。

(5) 発表とふりかえり

「ブレ・ストはどうでしたか？」

- 人数がよかった。みんなの意見がだしやすかった。
- 物理的な距離の近さ。普通の声で話せる。
- 自分の話をよく聞いてくれた。自由に発言できた。
- バックグラウンドの違う人が、意見を出し合えた。
- 見える化／役割が決まっていた。
- 「責任を持たなくていい」というルールがよかった。



ブレ・スト

2-2-2 ミニ講義（解題） 「話し合いの手法の技やふるまい」（20分）

「開始してからここまでで講師のふるまいに、どんな技や心がありましたか？」という問いかけののち、講師からの解説がありました。



【技やふるまい】

<p>A：レイアウト、グループサイズ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ レイアウト（すわり方）：一重の輪／シアター／口の字型／班の島</li> <li>➢ グループサイズ：何人で活動する？一人／ペア／4人／班の島</li> </ul> <p>⇒立場や気持ちの変化を意識して。進行していくにつれて、段々と自分事になるように。</p> <p>⇒状況によって、ひとりで考える時間も作ります（グループサイズ一人）。</p>
<p>B：話し合いのプロセスの推移</p>	<p>「共有」⇒「拡散・混沌（クリエイティブ・カオス）(*)」⇒「収束」⇒「共有」（⇒結論）</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-right: 20px;"> </div> <div> <p>*混沌（カオス）は、クリエイティブなカオス。恐れなくて！</p> </div> </div>
<p>C：話し合いのゴールとルール</p>	<p>話し合いには「ゴール」と「ルール」があります。話し合いのゴールと、それに合ったルールを設定することで、話し合いをスムーズにする枠組みを作ります（＝場づくり）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ ゴール：集まる人、時間、目的などによって、ゴールは異なります（ゴールの大中小）。</li> <li>➢ ルール：参加者に合わせたルールを設定します。</li> </ul> <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>よりよい対話のためのグラウンドルールの例</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 頭から否定しない。</li> <li>2 1人だけ長々としゃべらない。</li> <li>3 沈黙の時間も大切にしよう</li> </ol> </div>
<p>D：話していることの見える化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 「拡散」のための、模造紙への落書き</li> <li>➢ 「収束」のために、ワークシートなどを活用</li> <li>➢ 話し合いを書く「ライブレコーディング」</li> </ul> <p>見える化は、頭と口だけでなく、身体も使うことができます。</p>
<p>E：進行役のふるまい（マインド）</p>	<p>進行役は、引き出し、見守る役です。参加者が主体性を持てるよう、常に場に聞き、問います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ DoではなくBeになる</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 姿を見せる（明るく／静寂）</li> <li>2 存在している（心身ともに）</li> <li>3 真実を述べる（することに矛盾なく）</li> <li>4 すべてを手放す（なるようになる、執着しない）</li> </ol>

参考図書：『ファシリテーション～実践から学ぶスキルとところ』中野民夫他著、岩波書店（2009）

### 2-3-1「ミニ話し合い実践」の準備 (20分)

(1)話し合い実践で話す「お題」を考えます。  
実践で話したいお題（テーマ）を、紙に書きました（1人1テーマ）。一重の輪に戻り、一人ずつ発表しました。

#### (2)グループづくり「マグネット・テーブル」

話し合うためのグループ作りを、「マグネット・テーブル」という方法で行いました。お互いの「お題」から、似たもの同士が自発的に集まり、4人組の班を作ります。  
(魅力的なお題があれば、自分のお題と違うところに行く「浮気」も可です！)

#### (3)「場」のしつらえ

班ごとの島に移動し、準備をします。

- 話し合いは、30分（ルール作り含む）×2セッションです。
- 役割分担：進行・記録・発表・うなずきの4役
- 先攻、後攻のテーマと役割を決めます。



### 2-3-2「ミニ話し合い実践」 (60分)

「テーマの明確化&ルール作り」を丁寧に行ったあとに、話し合い（約25分）を始めます。

進行役は、「話し合いのプロセス（p4）」を意識します。記録係は、ホワイトボードに貼った模造紙に、話し合いの内容を記録していきます。



#### 【各グループが話したテーマ】

- 「ベテランもフレッシュマンも話しやすい場の作り方」
- 「イベントの企画・運営を外国人と一緒に作るには」
- 「ボランティアさんとの話し合いをうまく進めるには」
- 「ボランティアさんにどこまでお願いできるか」
- 「語学講座の収益（参加者数）をいかにあげるか」
- 「日本語を母語としない児童・生徒を支えるネットワーク構築のために」

2-4-1「ミニ話し合い実践」のふりかえり (30分)

(1)班ごとに、次の点からミニ話し合いをふりかえりました。

- 実践してみてどう感じましたか。
- 進行役はどうでしたか。
- 今日の体験した技やふるまいを試すことはできましたか。

(2)班で行ったことを全体で共有しました。

- 何をテーマに、どう話し合い、何を感じたか

【共有から】

- 「話がつまる⇒カオス⇒納得（新しい発見）」が確認できた。
- 話しやすい場を作るには、前段階の仕込みが大事と思った！
- ボランティアへの関わりについて、これまで職場で話し合う機会がなかった。



2-4-2 全体Q&A (10分)

2-4-3 全体ふりかえり (15分)

一重の輪に戻り、全体のふりかえり（チェック・アウト）を行いました。

(1)一人で書く：付箋に書きました。

(2)共有する：一人ずつ付箋を読み上げ、読み上げた付箋を模造紙に貼っていきました。

----- 「今日、私がハッ（ドキリ）とした話し合いのコツ」 -----

準備の大切さ

- ・前半のしこみが大事
- ・ルール決め
- ・相手に合せたグラドルール
- ・会を進める時、まずグラドルールを参加者に周知することの大切さを再認識した
- ・グラドルール/グループサイズ 考慮しつつ進行すること
- ・話しやすい人数の再確認

話し合いのプロセス

- ・すべてのアイディアの出し合いの豊かさ
- ・クリエイティブカオス⇒考える時間
- ・カオスにつきあうことをいやがらない
- ・拡散、混乱は大事⇒自然に収束
- ・カオスは自然に収束する
- ・沈黙の時間を大切に。
- ・なるようになる。

見える化

- ・書き出す
- ・テーマとゴールの見える化
- ・現状を「見える化」⇒解決方法も考えやすい

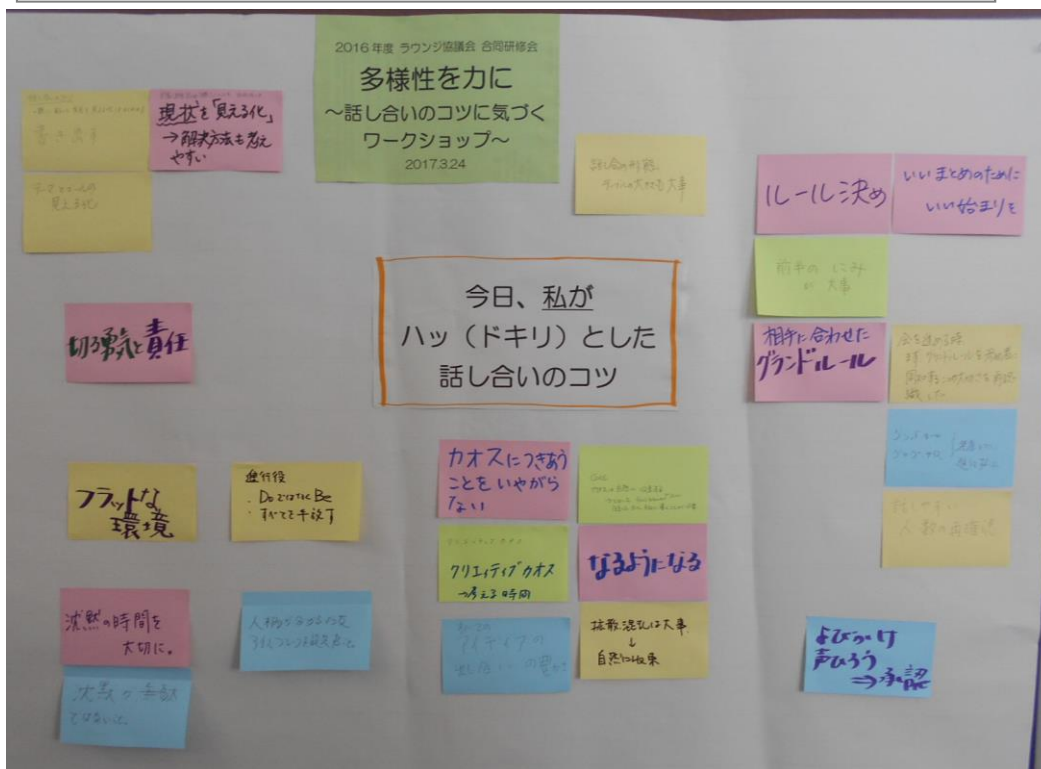
その他

- ・フラットな環境
- ・進行役 Do ではなく Be すべてを手放す

### 3 参加者の声（アンケートから）

- 進行役には準備（仕込み）、技術があることを知りました。もっと学びたいです！
- 話し合いの中の役割分担を決めるというのは、当たり前ですが、今まであまり意識していなかったのが改めてわかりました。
- ファシリテーションを1人でやらなくて良いというのは心強いです。今後の参考にさせていただきます。
- 4時間があっという間でした。これから工夫して話し合いにのぞみます！
- 昨日まで苦手意識のあった“会議”、楽しくとりくめそうです！
- 話し合いをしてみたくくなりました。ありがとうございました。

#### ふりかえり「今日、私がハッ（ドキリ）とした話し合いのコツ」



作成：平成 29（2017）年 4 月

発行：横浜市国際交流ラウンジ協議会（事務局：公益財団法人横浜市国際交流協会（YOKE）

問合せ：TEL045-222-1173 info.corner@yoke.or.jp